
ぽっかり空いた私の穴

桜桃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぼっかり空いた私の穴

【Nコード】

N16780

【作者名】

桜桃

【あらすじ】

歩美ちゃん視点です。
中学1年生の設定です。
新一が、歩美、元太、光彦に
コナンだったことをお話します

この話は、名探偵コナン 自作小説
にも掲載されています。

「俺、アメリカに引越すんだ。」

コナン君から急に言われた。

あまり状況が理解できなくて、最初は呆然として、
後で思いつきり、泣いた。

私の心にぽっかり穴があいた。

あれから、7年。

当時小学校1年生だった私も、もう中学1年生。

「歩美ー、遅刻するわよー！」

「はあい！今いきまーす！」

下へと駆け下りた。

「じゃ、行ってきますー！」

「気をつけてね。」

「はい！」

がちゃ

「はよーっす、歩美！」

「おはようございますー！」

「おはようー！」

7年の間、どんなに楽しい一時があっても、コナン君を忘れたことはなかった。
小学校1年生で、コナン君に言われたあの一言から空いた穴は、まだ、ふさがらない。

「おはよう。」

「おはようございます、灰原さん。」

「おっすー！」

「おはようー！哀ちゃん。」

「どうしたの？吉田さん。元気ないようだけど。」

「なんでもないよ！いつもどおり！」

無理に笑顔をつくった。

本当はコナン君が居なくてつらい。

つていたいけど、言ったところで、コナン君は帰ってこない。

「数日後」

「今日は話があるの。」

博士のうちに来てくれる？」

「うん。」

「わかりました。」

「？」

なんだろう。

楽しいことだといいな

く博士邸く

「あれ？蘭お姉さん。」

「新一さんもです。」

「なんか用があんのか？」

「ああ。まあな。」

「早く言いなさいよ。」

「わかってるって。」

私たちはソファに座って、
前には新一お兄さんと蘭お姉さんが座った。
哀ちゃんは立っている。

「これ、見てくれ。」

「探偵団バッジ？」

「なんでおめえが持ってんだよ。」

「これは、コナンのさ。」

「コナン君のですか！？」

「ああ。そして、これがコナンの靴、メガネ、蝶ネクタイ
サスペンダーに……」

次々とコナン君の私物を出す。

「この蝶ネクタイさ、えつと・・・
皆！久しぶり。」

「わぁ！コナンの声！！」

「そう。」

「新一お兄さんは・・・コナン君？」

「・・・よくわかったな。」

新一お兄さんの一言で、
光彦君と元太君は目を見開いて、
私は涙があふれていた。

その後、
どうしてそうなったのか、訳を話してくれた。
最初は光彦君も元太君も怒っていたけど、
ちゃんと理解して、最後には笑っていた。

「歩美ちゃん、ちょっと。」

私は新一お兄さんに呼ばれ、部屋を出た。

「あのさ、どうして俺がコナンだって・・・」

「だって、初恋の相手だもん。」

「え?」

「私の大切な初恋の相手だもん。」

「でも・・・」

「答えは、蘭お姉さんと同じ。」

きつと、蘭お姉さんも気付いてたんでしょ?」

「まあ。」

「好きだから、気付いた。ってところ。」

「まいったな、蘭と全く同じだぜ。」

「でしょ?」

蘭お姉さんを思い出したのか、

顔が赤くなる。

「新一お兄さん、幸せだよね。」

「ああ。」

「そっか、ならいいの。」

「コナン君の無事を知りたかったから。」

「コナンは幸せにやってるよ。」

「毎日、大切なやつと過ごしてるから。」

「うん。」

「よかった。本当に、よかった。」

コナン君に分かれを告げられてから
ぽっかり空いた私の穴。

まだまだふさがるには時間がかかりそう。

でも、

コナン君の無事もわかったし、
これから徐々につまりそうだ。

ぼっかり空いた私の穴。

埋まる頃には、

私も幸せになっているだろうか。

(後書き)

感想&評価!!

お願いいたします。

桜桃

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1678o/>

ぽっかり空いた私の穴

2011年10月7日03時42分発行